

私は室蘭で生まれ育ち、内地での学生生活を送った後、夏の暑さに耐えきれず北海道に戻ってきました。学生の際は土木工学を専攻していたのですが、担当教授が地質屋だったご縁もあり、札幌に本社を構える会社の地質部に入社できました。入社当時は地質学について全くの素人でしたが、諸先輩や上司に恵まれて、基礎中の基礎からみっちり鍛えていただきました。

今あるのもこれまでのご指導の賜物であると感謝しており、今でも足を向けて寝られません。

3年前に現在の会社に転職し、高層建築物の基礎調査や液状化の検討等の業務を行っていますが、これまで携わったダム貯水池地すべりや道路防災点検の斜面調査等と異なった分野の調査に携わることが多くなりました。このため、まだまだ勉強・経験不足な点が多く自分の見識の狭さを痛感しているところです。これからも日々の精進を重ね、資質の向上に努めていきたいと思っています。

また、技術士の資格試験については、転職を契機にしっかりと取り組み、先輩技術士に何度も模擬答案を添削してもらい、無事合格までたどり着くことが出来ました。ただし、最近では資格を取得してからの方が責任が重く大変だと感じており、自身の知見を深めるべく鋭意努力しているところです。

現在、北海道応用地質研究会の幹事を担当させていただいていますが、最近は若い地質屋さんをめっきり見かけなくなりました。もっと広くこの業界の魅力を伝えられたら良いと感じています。このためには、前号でもありましたが、技術士が主人公のドラマ放送を望む意見に賛同します。私の希望としてはピックハンマーを持って活躍する観月ありささんです。

星野 敦司(ほしの あつし)

● 応用理学部門(地質)
建設部門(土質及び基礎)

勤務先

株式会社タナカコンサルタント
技術 3 部



→次号は、田中雄太さん(建設/総合技術監理)

私は東京のカルチェラタン、神田での大学生活以外は、ずっと釧路市民で釧路市役所勤務も 32 年目になりました。土木職で採用され、公園、下水道、水道と渡り歩き、いずれの部署でも建設業務と維持管理業務の両方の職場を経験することができました。現在は、道路の維持管理業務に配属され 2 年目になります。技術士の資格は、上下水道部門、総合技術監理部門で取得しましたが、私

なりの CPD をご紹介します。地方の平凡な公務員という制約上、研修会、講習会の参加の機会は限定されます。そこでまず、新聞、雑誌、テレビ等あらゆる媒体を介しての情報収集に努めています。さらに自費で日本国内はもとより海外にも研修の場を求め、歴史遺産や大型プロジェクトの視察も行いました。フランスではベルサイユ宮殿の庭園を散策し、下水道博物館を訪問した時は実際に下水道管の内部に入り、エジプトではアスワンハイダムの偉業を目にし、大いに感動しました。これも公園、下水道、水道の技術者として歩んできた自分と、先人たちの偉業が重なって見えたからではないかと思えます。このことは、日本技術士会の会長であられた佐藤清さんの著書「道との出会い」から教えられました。この感動は実際に仕事をしてきた者たちのみが有する特権であり、先人たちの苦労の積み重ねが、後世の人たちに引き継がれていき、世界遺産としての人類の宝となっているのを感じることができるからです。何かの機会にお会いしましたなら、一声かけて下さい。仕事の話だけではなく、技術士としてのロマンを語り合いたいと思います。

稲村 親司(いなむら ちかし)

● 上下水道部門(下水道)
総合技術監理部門

勤務先

釧路市都市整備部
道路維持事業所



→次号は、佐藤之泰さん(建設部門)